

地域を、日本をみんなに変えていく！ 共創文化を広めるフェーズへ 2 コクリ！プロジェクト 最新レポート	「新連載」 他業界から学ぶマーケティング事例 30 Marketing Crossing 価値と感動を 生み出す人にインタビュー 32 「マエストロの肖像」 サッカー・コンサルタント 「アーセナルサッカー・スクール市川」代表 幸野健一 From Local 34 世界に誇る まち・むらのしごと 食品サンプル (岐阜県郡上市)
--	---

連載

とーりまかし Terumi Masaki

インドネシア語で  
「ありがとう」の意。

日頃からお世話になっているクライアントのみなさまにありがとう、読者のみなさまにありがとう、そして私たちに知恵を提供してくれるすべてのみなさまにありがとう、という感謝の気持ちを込めて、この名前をつけました。ちなみに、ジャらん「jalan」もインドネシア語で、「道」「プロセス」の意味です。「jalan jalan」で、「散歩する」「ブラブラ出かける」「旅行する」などの意味になります。

# コクリ！ プロジェクト 最新レポート

地域コ・クリエーション  
研究  
(旧：地域イノベーション研究)  
第8弾

コクリ！プロジェクト

## 地域を、日本をみんなに変えていく！

### 共創文化を広めるフェーズへ

コクリエーション  
私たちじゃらんリサーチセンター（JRC）は、2011年から「地域コ・クリエーション研究」（旧：地域イノベーション研究）を行ってきた。現在は、「コクリ！プロジェクト」を新たに立ち上げ、コ・クリエーション文化を広める活動を推進している。その最新情報をお伝えする。

その原因はいくつもある。たとえば、SNSの発展によって、個人の興味・関心でつながりを創りやすくなったこと。ファシリテーター技術が広まり、対話の場が充実したこと。テクノロジーの進化に伴って、離れた場所とのやり取りが簡単になり、時間の余裕が増えつつあること。「コクリ！プロジェクト」は、こうした世界の変化の上に花開いた取り組みである。

### コ・クリエーション文化が 地域の大きな財産となる

「コクリ！プロジェクト」は、一言でまとめれば、「コ・クリエーション文化」を広める活動だ。コ・クリエーションとは、一人ひとりが「根っこ」の想い（種火）を自覚した上で、多様な人と境界を超えて共感でつながって、共に行動し、新しい未来を創りだすことを



指す。「コクリ！プロジェクト」は、主体的に外部とつながりながら、活発にコ・クリエーションする個人・組織・地域を増やすことで、コ・クリエーションを地域や社会を変革する原動力にしようとしているのだ。

田坂広志氏は「目に見えない資本主義」で、これから新たな資本主義が誕生するだろうと語っている。そ

の資本主義では、金融資本だけでなく、知識資本・関係資本・信頼資本・評判資本・文化資本の「目に見えない資本」が大事になる。その最上位が文化資本だ。「コクリ！プロジェクト」を経て、個人・組織・地域に根づいたコ・クリエーション文化は大きな財産となり、評判、信頼、関係、知識をもたらし続けるに違いない。

一人ひとりが本領発揮して  
社会を動かし、変える時代へ

ここ数年、東北を中心にボランティア的な活動が盛んになり、ソーシャルビジネスや社会起業家という言葉が広まって、NPOが学生の人気就職先になってきた。住民主体のまちづくりが盛んな地域が増え、島根県海士町や徳島県神山町などの成功例が有名になった。もちろん、こうした変化はまだ限定的だが、確実に広がっている。行政にすべてを任せるのではなく、一人ひとりが本領を発揮して、自分の住む地域や暮らす社会を自分たちで考え、動かし、変えていく時代がやってきつつあるのだ。

※田坂広志氏/多摩大学大学院 教授、世界経済フォーラム（ダボス会議）Global Agenda Councilメンバー  
（「とーりまかし」33号にインタビューを掲載）



## 京都のまちづくりびとのFacebookを「コクリ!」で染めた日

コクリ! 京都は、「京都のまちづくりの現場で動いている人たちに、ぜひラボに参加してもらいたい。そして、京都にコ・クリエーションを増やしたい」という京都チーム(しまっちさん/島田昭彦さん、まついちちゃん/松井朋子さん、けいかちゃん/山本恵果さん、すぎざきさん/杉崎和久さん)の想いが花開いたイベントだ。なお、「コクリ! プロジェクト」では、「一人の人」として接するために誰もが「あだな」で呼び合っている。市長も例外ではない。

2015年10月14日~16日の3日間、開催した。1日目は、各地域の事例共有の後、大ちゃん/京都市長・門川大作さんと対話。2日目は、4チームに分かれて京都のまちづくりの現場を見て回る「コクリ! ツアー」。現場の方々の「根っここの想い」と「北極星」をインタビューし、コ・クリエーションの可能性を探った。3日目は、大ちゃんをはじめ、京都のまちづくりのキーパーソンの方々を招き、みんなで対話する「オープンデイ」を実施。皆さんに「コクリ!」を体感していただいた。なかなか一堂に会することがないほど影響力の強い方々が集まったため、この日、京都のまちづくりびとのFacebookタイムラインは「コクリ!」一色になったという。

京都市は大都市にもかかわらず市民によるまちづくりが大変盛んで、コ・クリエーションの可能性も大きい。実際、コクリ! 京都をきっかけに、すでにさまざまなコ・クリエーションプロジェクトが動いている(下記参照)。

**主催** 京都チーム(島田昭彦さん、松井朋子さん、山本恵果さん、杉崎和久さん) + コクリ! プロジェクト

**参加地域チーム** 小布施チーム、丹波チーム、高知チーム、宮崎チーム、学生チームなど  
※加えて、首都圏の企業や個人が10名ほど参加

**京都からの主な参加者** 京都市長・門川大作さん、ちおん舎・西村吉右衛門さん、Impact Hub Kyoto・浅井俊子さん、半農半X研究所・塩見直樹さん、京都移住計画・田村篤史さん、前greenz.jp 編集長・兼松佳宏さん、応用芸術研究所・片木孝治さん、PaKT・松榮秀士さん、場とつながりラボhome's vi・篠原幸子さん、場とつながりラボhome's vi・荒川崇志さんなど、20名以上が参加

### コクリ! 京都から生まれた主なコ・クリエーション

●人を巻き込む「モテる」公務員と未来を創る! —ソーシャル・イノベーション・サミット 2016 in 京都 8月27日実施予定。日本各地で地域や企業、大学などと一緒にまちの活性化に取り組む全国のモテる公務員が京都に集合。そんな公務員たちやセクターを超えて地域の未来を創りたい人々が、共に切り拓く未来について語り合う。

●半農半Xの塩見氏 x MACHI LOG in 銀座(京都・塩見直樹さん x 宮崎チーム・齋藤潤一さん) ●半農半X東京イベント(京都・塩見直樹さん x 東京・但馬武さん) ●丹波ツアー(京都・島田さん、松井さんなど x 丹波チーム)

●MACHI LOGインタビュー(京都チームの面々、田村篤史さん、松榮秀士さん、塩見直樹さん x 宮崎チーム・齋藤潤一さん) など



全国で情熱をもって活躍されている方々の取組を拝聴。その志高い実践力に感服。じゃらんリサーチセンター・三田愛さん、クリップ・島田昭彦さん、京都移住計画・田村篤史さんをはじめ、開催にご尽力の皆さんに感謝。  
—京都市長門川大作オフィシャルサイト 活動日記より



1日目に大ちゃん/門川京都市長と対話。他の場では話したことがない自らの「根っここの想い」をお話いただいた。その後、コクリ! 京都は市長の活動日記に登場



コクリ! ツアーの1つ「スキマツアー」では、「五条モール」を訪れ、改装中の銭湯を見学



コクリ! ツアー「学生ツアー」で、「PaKT」で学ぶ学生たちと対話するメンバーたち



「オープンデイ」では、コクリ! メンバーと京都のまちづくりキーパーソン総勢50名ほどが対話を繰り広げた

### 京都の「垂直のつながり」を知っていただきかった

京都は昔からまちづくりが盛んなところで、単に町が古いだけでなく、コ・クリエーションの長い歴史があります。コクリ! プロジェクトは、さまざまな地域同士の「水平のつながり」。だからこそ、コクリ! 京都を開き、皆さんに京都の歴史的な「垂直のつながり」を知っていただくことに意味があると考えました。開催して本当に良かったと思います。皆さんに京都を知っていただけただけでなく、京都内外のつながりが増えましたし、門川市長はマニフェストに「みんなごと」という言葉を加えるほど、コクリ! プロジェクトに共感してくださっています。

コクリ! 京都チーム 株式会社クリップ代表取締役 京都おもてなし大使

しまっちさん/島田昭彦さん



## 「3+1」の コ・クリエーション原則



コクリ! プロジェクトの場の仕組みとコミュニティ

根っここの想いを自覚して 共感でつながり、まずやってみる

「コ・クリエーションとは何か。「コクリ! プロジェクト」では、「3+1」の原則に沿って生まれたチャレンジを「コ・クリエーション」と定義している。

「3+1」の原則で「コ・クリエーション」を起す

「コクリ! プロジェクト」の根幹に、「3+1」のコ・クリエーション原則(上図)がある。この原則に沿った場を創れば、どこでも誰でもコ・クリエーションを起せると私たちは考えている。

具体的には、①場に集まった一人ひとりが自らの「根っここの想い(種火)」心の底から大事に想うこととを自覚して、②境界を超えて共感(みんなごと)自分ごとでもあり、みんなの重要事でもあることと)でつながり、③偶発を大切にしながら、感性に従いまずやってみる。この順番でサイクルを回せばよい。そのとき、「+1」の「ありたい未来(北極星)」をいつも意識することが大切だ。

ただし、このサイクルを回す場は、参加者が恐れを手放し、愛から行動できる「安心安全で、信頼できる場」であることが大切だ。また、情熱と覚悟をもって、ワクワク楽しく挑戦するよう促す必要もある。こうした場の準備には、専門的な知識や技術が必要だ。

コクリ! キャンプ、コクリ! ラボなど、コクリ! の場はすべて「3+1」の原則でできており、そこから生まれるコ・クリエーションも「3+1」を大事にしている。

たとえば、左ページで紹介した「コクリ! 京都」は、①コクリ! ラボの京都チームが、「京都にコ・クリエーションを増やしたい」という北極星と、「コクリ! の場を京都にも創りたい」という根っここの想いに気づき、②それをラボメンバーと共有してつながり、③まずやってみようとした取り組みだ。コクリ! 京都は「3+1」を生み出す場であると同時に、「3+1」から生まれたのだ。

# 地域、農林業、官僚、首長、行政、企業、クリエイター、NPO、教育、ファシリテーター、金融、ITといった多様なバックグラウンドをもつ132人が、平日の午後集った!

## 【第1部】ストーリーテリングから始まる未来妄想

はじめに、自分の「根っこの想い」に改めて気づき、仲間の「根っこ」を知って深く理解して、つながるためのワーク「原点ストーリーテリング」「未来ストーリーテリング」を行った。その上で、6人が語り合っ、起こりうる未来像に関してさまざまな角度からブレインストーミングをする「未来妄想ワーク」を実施。第2部に向けて、頭を柔らかくしていった。途中には「兆しの共有」ということで、キーパーソン(10ページ参照)たちが、すでに生まれたコ・クリエーションの成果を発表した。



## 【第2部】この指とまれ分科会

休憩を挟んで、いよいよ今回の中心コーナー「この指とまれ分科会」に入っていた。これから創り出したい未来を描くために今考えたい「問い」を30個募集し、それぞれの問いに集まった人たちが話し合う時間だ。右ページで紹介する多様な問いが出揃った。多くのチームが「1~2時間じゃ、全然話し足りない!」と声を上げるほど盛り上がった。その結果、右ページで紹介した代表的な4チームをはじめ、およそ半数のチームが、コクリ! キャンプ後も対話イベントを開催したり、プロジェクトを始めたりしている。こうした取り組みはすべてコクリ! メンバーの皆さんが自主的に企画・運営しており、「コクリ! プロジェクト」はフォローするに過ぎない。



会システムに劇的な変化が起きつつあり、「近代の終焉」が近づいているとも言われる。その変化に対応するには、行政、地域、企業、NPO、教育機関、個人などが密接に連携して動く必要がある。しかし、今後の日本を担うさまざまな立場の方々が、「根っこの想い」を語りあい、境界を超えて共感でつながり、感性に従って一歩を踏み出せる場はほかにないのが現状だ。コクリ! キャンプは、まさにそうした場を目指している。ここは、一人では、そして日常では解けない問いを仲間と共に探求し、創りたい未来の青写真を浮かび上がらせ、偉大なチャレンジの同志を見つける場なのである。今回のコクリ! キャンプでは、上に紹介した多様な「問い」が出され、一つひとつの問いについて各チームに分かれて対話した。そのなかには、その後も対話が続いている問い、実行に向けて動き始めている問いがいくつもある。富山県氷見市や岡山県西粟倉村などでは、コクリ! メンバーが主体的に企画・実行するイベントが立ち上がった。(詳しくは11ページ)ここで生まれた「種火」が今まさに日本中に火をつけ始めている。

## 成果!

### この指とまれ分科会から生まれ、対話が交わされた問い一覧

- 子供の貧困への包括的支援 ●海外VIP向け!日本の地域のいいもの紹介サービス ●日本の宝物コラボグランプリ地方開催 ●未来の公共とは? ●2020年の高校 ●人工知能に滅ぼされず相談される人間になるには? ●渋谷コミュニティFMでクロスボーダーの対話をまちなかにつくる!区長への提案求む! ●地方の人口政策のあり方 ●子供にも選挙権付与! ●アウトリーチP!ここに来ない人をどう巻き込む? ●社会をトータルでどう変えるか? ●1000年先も自然と人がともに生きるには? ●本当に本当にデザインすべきものは? ●ポスト資本主義社会を考える ●観光・移住から「田舎へ帰る」へ。地方に〇〇があれば都市もHAPPY! ●GDP?人口?豊かな地域というのはどんな姿? ●あなたの源(オリジン)は? ●魚が枯渇しない漁業のあり方 ●50年後にすべての日本人が誇れる日本にするために いますぐに地域で取り組むべき課題とは? ●子どもをフックに1人1人の才能(ギフト)をいかす世の中 ●日本が世界に貢献できることは?気の流れるようにしたい! ●都市に出てきた若者の地元との関係は? ●人口減少社会を正しく迎えるために「祭り」に何が出来るのか? ●日本を変える「未来自治体」の仕様づくり ●地域ビジネス創出! ●どんなものづくりが世の中を豊かにするか? ●小さな経済圏 ●世界で勝つことと結果を出すことがイコールドigitalコンテンツの制作 ●エスカレーターの片側あけてわざわざ走って登る日本の悪習をどうやって社会全体で改めるか? ●若者と20年後を考える ●ソーシャルリーダーの成長機会の提供と参加を進めるには

### コクリ! キャンプ後も対話や企画を続けている代表的なチーム (詳しくは11ページ)

- 子供の貧困への包括的支援→企業×NPOのコ・クリエーションを計画中
- 本当に本当にデザインすべきものは?
  - 2016年4月に「本当に本当にデザインすべきものはNIGHT」を開催。今後も継続予定
- 観光・移住から「田舎へ帰る」へ→2016年7月に「コクリ! プチキャンプ@西粟倉」開催予定
- 日本を変える「未来自治体」の仕様づくり→2016年5月に「コクリ! プチキャンプ×氷見」開催

思った通りにみんな熱かった。かみしもを脱いで、恥ずかしがらずに本音で話せる場でした。たとえば、町役場の方と市長さんと省庁の者が混じり合っ、対等に話すことができる。このような場はなかなか用意できるものではありません。



環境省大臣官房審議官 徳さん/中井徳太郎さん

今回は最初から、「ここに集まる皆さんに、地域の課題を解決していただく」と考えていました。そうした相談をできる方々が集まる場であることも、「コクリ! キャンプを社会実験がおこる場にしたい」という想いも知っていましたから。



富山県氷見市長 祐治郎さん/本川祐治郎さん

それぞれの分野の一線で活躍する人がこれだけ集まっていて、しかも普段相談できないことを相談できる雰囲気があり、深い信頼関係がありました。「ここは、バカをさらけ出す価値のある場所だ」と思えました。



NOSIGNER CEO えいすけさん/太刀川瑛弼さん

### 日本を変えるためにコ・クリエーションする

2015年2月に第1回、2016年2月に第2回「コクリ! キャンプ」を開催した。いずれも地域、農林業、官僚、首長、行政、企業、クリエイター、NPO、教育、ファシリテーター、金融、ITといった多様なバックグラウンドをもつ130人ほどを平日の昼間に一堂に集め、まるまる半日、対話する場を用意した。コクリ! キャンプの最大の狙いは「日本レベルのコ・クリエーション」を起こすことにある。「100年後からみて、歴史が変わったといえるような社会実験がおこる場にしたい」というのが、その合言葉だ。1世紀単位で見れば、今、日本だけでなく、世界が大きな過渡期を迎えている。経済システム、社



## コクリ! プロジェクトの

## 日本レベルのチャレンジ

前回の「とーりまかし」記事以来、2回のコクリ! キャンプを開催してきた。ここでは、2016年2月に行った第2回コクリ! キャンプについて詳しく紹介する。

# 歴史を変える火を起こす コクリ! キャンプ



コクリ!プロジェクト

の

人と成果

予想だにしない未来を  
次々に生みだすキーパーソンたち  
コクリ!ラボやコクリ!キャンプなどに積極的に参加し、活躍する方々を「コクリ!メンバー」と呼んでいる。ここでは、数名のメンバーの活躍ぶりや成果の一端をご紹介します。

## コクリ!の仲間が、町長になり、史上最年少かつ史上初の女性組合長になった黒川・南小国町×クリエイターなど

### KUROKAWA WONDERLANDが世界各地のアワードを受賞

2015年4月、「KUROKAWA WONDERLAND」というWebサイトが立ち上がった。これは、まちづくりNPO法人「みなりんく」を中心に、町を世界に発信したい黒川温泉・南小国町のメンバーと、カッコいい作品を創りたい東京のクリエイターたちが手を結び、互いに無償で創り上げたものだ。



KUROKAWA WONDERLAND (http://kurokawawonderland.jp/)

世界各地で15個以上のWEBアワード・ムービーアワードを受賞し、まさに「世界中に広く黒川・南小国を発信するクリエイティブ作品」となった。また、KUROKAWA WONDERLANDがきっかけとなり、TOKYO DESIGN WEEK2015に呼ばれて特別イベントを実施したり、地元の吉原神楽をミラノ万博で上演したりもしている。地元・南小国町では特別上映会やクリエイターズワークショップを開き、現在も新たな音楽×映像作品を制作中だ。こうした一連の動きは、関係者の信頼の積み重ね、地域イノベーションに対する熱い想いがあってこそできたことで、まさにコ・クリエーションの典型例といえる。

### コ・クリエーションが地域を解放し、変革している

黒川・南小国町のコ・クリエーションは、これだけではない。最近では、地元の木材で旅館の部屋や家具などを創る「地のチカラを活かす」プロジェクトや、東京と南小国の子どもたちが共に遊び、学ぶ「こころの宝箱キャンプ」などを実施し、慶應義塾大学の保井先生(保井俊之特別招聘教授)たちが行う「地域のつながり可視化研究」にも協力している。こうした動きは、2012年の「いち黒川わっしょいプロジェクト」(「とーりまかし」33号)から始まった。その当時はまだ青年部の親世代が組合などを取り仕切っていたが、青年部世代がさまざまなコ・クリエーションを行った結果、今では青年部世代が地域の中心となっている。その何よりの証拠が、昨年、ゆうきさん/北里有紀さんが黒川温泉観光旅館協同組合で史上最年少(37歳)かつ史上初の女性組合長となったことだ。同時に、組合理事は全員が30~40代となった。さらに昨年は、みなりんくメンバーの一人、しゅうじさん/高橋周二さんが弱冠42歳で16年ぶりの新町長に当選した。黒川・南小国町では、コ・クリエーションが、4年前には想像しえなかった未来を起こす大きな原動力の一つになっているのだ。上で触れた吉原神楽は120年以上続いてきたものだが、近年は存続の危機にあった。それを救ったのも、コ・クリエーションの力だ。もちろん、これは通過点に過ぎない。みなりんくは、南小国町が1000年後も変わらずにあり続けるために、今後も地域内外の「窓口」となって、地域内外のつながりを生み出していく。



南小国町長となったしゅうじさん/高橋周二さん



史上最年少かつ史上初の女性組合長、ゆうきさん/北里有紀さん



TOKYO DESIGN WEEK2015で行った吉原神楽の1シーン

## 市職員と企業のビジネスパーソンが協力して課題に挑む 塩尻市×企業

### 地方創生協働リーダーシッププログラム「MICHIKARA」を加速中

2015年9月、「コクリ!プチキャンプ」で意気投合した3人がいた。学生時代には渋谷や新宿でナンパを繰り返し、現在は塩尻市で市職員を勤める「元ナンパ師」の山ちゃん/山田崇さん、数々の企業などで変革実現のサポートや変革リーダー育成など、個人や組織、社会変革を担ってきた「変革屋」のささひろさん/佐々木裕子さん、リクルートライフスタイル人事部の竜さん/飯田竜一さんだ。

他の場では絶対に出会わないはずの3人が、コクリ!の場で出会い、たった20分で深くつながった。そして、彼らは互いに境界を超え、一步を踏み出したのだ。それが、地方



ささひろさん/佐々木裕子さん 山ちゃん/山田崇さん

創生協働リーダーシッププログラム「MICHIKARA」である。長野県塩尻市の職員の皆さんと、株式会社チェンジウェブ、ソフトバンク株式会社、株式会社リクルートホールディングスの方々チームを組み、塩尻市の「生の地方課題」に対する行政施策提案を、実際に推進する担当職員も入った「官民協働チーム」で自治体トップに直接立案・提言するプロジェクトだ。単なる「提言」に終わらず、実際の翌年予算編成に組み込まれるようになっている。極めて短時間で取り組むことで参加者の急成長を促す仕掛けもあり、スケールアウトも視野に入れた野心的なチャレンジである。

## 宮崎でコ・クリエーションする ローカルメディア「テゲツー！」

### 宮崎×塩尻・丹波など

### ジャーナリズム・イノベーション・アワード2016で優秀賞を受賞

まあちゃん/長友まさ美さんが会長を務める「宮崎でげげ通信(テゲツー!)」は、宮崎 地元 おすすめ情報満載の情報サイトだ。月間PVは約50万。月12万人に見られており、ジャーナリズム・イノベーション・アワード2016では、並みいる大型メディアを押しつけて優秀賞を受賞。日本一のローカルメディアを目指し邁進中だ。



(右から2人目):まあちゃん/長友まさ美さん

まあちゃんは2014年からコクリ!ラボに参加している。当時はテゲツー!を始める前で、「もっと宮崎を盛り上げたい!」「役に立ちたい!」という想いだけが先走っていて、何をどう貢献しているのかさっぱりわからずに悩んでいた。しかし、本音で語り、自分のかっこ悪さもさらけだせるコクリ!ラボで、存在そのものを認めてもらったことをきっかけに、自然体でやりたいことができるようになったという。

それ以来、まあちゃんは、リアルとWebを融合させながら、自分たちの創りたいまちを自分たちの手でつくるために数々のコ・クリエーションを行ってきた。たとえば塩尻の山ちゃん/山田崇さんと「テゲツー!寺子屋」を行い、丹波には兄弟メディア「まめつー!」を産んでいる。宮崎産業経営大学経営学部の学生たちと「宮崎ダイアログカフェ」もスタート。こうした積み重ねの結果、実際に宮崎でチャレンジする若者や、地域内外のつながりが確実に増えている。



テゲツー! (http://visit.miyazaki.jp/)

## コクリ!キャンプ発の「コクリ!メンバー企画」、続々 東京・氷見・西粟倉・京都など

### 自主的な対話の場や勉強会が 多様な形で立ち上がっている

8~9ページで紹介した第2回コクリ!キャンプの「問い」を、その後も継続して対話するチームがいくつも出てきている。たとえば、デザイナーのえいすけさん/太刀川瑛弼さんが出した「本当に本当にデザインするべきものとは?」という問いは、2016年4月に「本当に本当にデザインするべきものとはNIGHT」へと発展し、その場にいなかった方も交えて、この答えのない問いを皆が主体的に語り合った。このイベントは今後も継続される予定だ。



なおこさん/大島奈緒子さん

また、「日本を変える“未来自治体”の仕様書づくり」という問いを出した氷見市長の祐治郎さん/本川祐治郎さんの呼びかけで、ゴールデンウィークに「コクリ!プチキャンプ×氷見」が開催された。氷見市庁舎全体を使った対話から、次の一步の芽がいくつも生まれているという。さらに、「観光・移住から“田舎へ帰る”へ」という問いを出したなおこさん/大島奈緒さんは、彼女が働く西粟倉村で、2016年7月に「コクリ!プチキャンプ@西粟倉」を開く予定だ。移住と観光の間に何かあるかを語り合うのは、地域こそがふさわしい。

他にも、磯辺さん/磯辺陽介さんが中心となって、京都で「祭り参加への入口をデザインすることによる定住施策」をテーマにしたゆるやかな勉強会を開くなど、10チーム以上が自主的に動いている。コクリ!キャンプの何よりの成果だ。



ココリ!プロジェクト  
の

ココリ! 対談

# ココリ!プロジェクトは 関係の創り方を学ぶ場であればいい

「ココリ!プロジェクトは、今の日本に必要なのか?」「必要だとしたら、それはなぜか?」をテーマに、4人のココリ!メンバーに縦横無尽に語り合っていた。

**情熱と責任を持った人が動かしていくことが大切**

**高間** コクリ!キャンプのような場をつくる時、大きく分けて二つの方法があると思うんです。一つは、多様なステークホルダーを集める方法で、もう一つは「想い」種火」を持った人が仲間を集める方法です。実は、前者は失敗しやすい。想いのあるチェンジエージェントが仲間を集めないと、うまくいかないと思います。その点、コクリ!キャンプは、愛さんが中心となって、想いを持って多様な仲間を集めている取り組みで、それがうまくいっている理由の一つだと感じます。



**高間さん/高間邦男氏**  
株式会社ヒューマンバリュー 会長  
1996年から「学習する組織」の研究調査を行い、AI・OSTなど、ポジティブアプローチでの組織変革手法を日本にいち早く紹介。

があります。ココリ!の場は、クリエーションの場ですね。この二つは似て非なるもので、事を起こす場には多様なステークホルダーが必要ですが、クリエーションの場に集うべきなのは「問題意識」を持った人で、肩書きはあまり関係ありません。この二つを混同して、クリエーションの場に肩書き優先でメンバーを集めると、高間さんのおっしゃるとおり、失敗するのだと思います。

**高間** 企業内でイノベーションを起こすときもまったく一緒ですね。

**太田** その通りですね。形式的にクロスファンクショナルチームをつくるくらいでは、たいがいの場合、うまくいきません。

**賢州** 僕は2008年から3年半、「京都市未来まちづくり100人委員会」を運営しました。京都の未来をつくるプロジェクト創発を目的とした場でしたが、あるとき、「情熱と責任を持って動ける人のアイデアだけを募ります」と言っていて、対話したことがあります。緊張感の高い時間になりましたが、それが良かったのだと思います。実は、その対話をきっかけに始まった13のプロジェクトのうち、6つ程度が今も続いているんです。単にアイデアを募っても、こうした変革は起こらなかったでしょう。イノベーションを起こすには、情熱と責任を持って主体的に動ける人が中心にすることが、アイデア以上に大切だと思います。



**太田さん/太田直樹氏**  
総務大臣補佐官  
モニターカンパニー、ポストン コンサルティング グループ シニア・パートナーを経て現職。地方創生とICT/IoTの政策立案・実行を補佐。

**イノベーションは「関係」から生まれる**

**べっく** 僕は、関係性には「自分ゴト」と「他人ゴト」公共」の二つしかないと思っています。自分たちの土地だから、掃除は自分たちで手分けしてやるというのが自分ゴト。税金を払っているから、公共の掃除はしてもらえると考えるのが他人ゴトです。

海士町にいますと、自然と自分ゴトの領域が広がります。ゴミ収集車の運転手さんも、ゴミ焼却場のスタッフも、公共で働く人のたいがいがい知り合いですからね。そのままの感覚で東京に来ると、たとえば東京の地下鉄の運転手さんみたいな人が増えると、地域や都市は変わっていくと思います。



**べっくさん/阿部裕志氏**  
株式会社巡の環 代表取締役  
トヨタ自動車を経て、2008年1月、「持続可能な未来へ向けて行動する人づくり」を目的に、島根県海士町で巡の環を仲間と共に設立。

**高間** 「ココリ!プロジェクト」は、政治、環境、経済などもすべて自分ゴトとして考え、変えていこうとしていますよね。それがココリ!の流儀だと思っています。ココリ!に関わる人たちの自分ゴトの領域は確実に広がっているのではないのでしょうか。

ところで、世の中には「実体主義」と「関係主義」があります。実体主義とは物事の本質は実体にあるという考え方で、関係主義は関係に本質を見る考え方です。僕は、正しいのは関係主義だと思うのです。たとえば、イノベーションを起こすにはシーズとニーズが大事などよく語られますが、実際は、イノベーションは人と人の関係から生まれるものです。多くの人が、実体が本質で、関係はサブだと思っているわけだけれど、本当は実体がサブで、関係が本質ではないでしょうか。たとえば、箱ものはサブで、建築物を通じて生まれる関係こそが本質なんですよ。

**べっく** 海士町には、「ハードは究極のソフトだ」と主張する役職員がいます。その方の考え方も関係主義ですね。

**賢州** 京都に「うさと」という変わった会社があって、僕はこの会社に接するたびに生き方を考えさせられます。うさとはタイの手織り布で服を作っているのですが、その布を織るタイの女性たちには、「自分なりのペースで、自分が美しいと思うものを作ってください。できた布はすべて買い取ります」と伝えていきます。自然じゃないという理由で、ノルマや納期を一切設定していないのです。布ができなくても、仕方ないという考え方は、生産量よりも彼女たちとの関係を大事にしているのです。

彼らにとってはとにかく関係性が一番大事で、関係性を優先するためなら、コントロールを放棄してもよいのです。

**べっく** いっそのこと、ココリ!プロジェクトも関係性づくり、プロセスづくりにも徹すればいいのではないのでしょうか。



**賢州さん/嘉村賢州氏**  
NPO法人 場とつながりラボ  
home's vi 代表理事  
場づくりの専門集団を組織。第1期~第3期京都市未来まちづくり100人委員会・元運営事務局長 (~2011年)。

はないでしょうか。

**太田** 僕もそう思います。今、仮想通貨で注目されている「ブロックチェーン・テクノロジー」\*は、国が貨幣を発行するのではなく、全員で情報を共有することで貨幣価値を保つシステムです。つまり、国や第三者機関などの実体ある組織ではなく、「関係」が価値の源泉になっているんです。

今後、SNSも含めたテクノロジーの発展によって、貨幣だけでなく、おそらく少しずつ、あらゆる領域で、関係こそが価値を生み出し、イノベーションを起こす源になっていくはずですよ。そのとき「ココリ!プロジェクト」は、参加者同士が良い関係を築くとともに、全員が関係の創り方や扱い方を学ぶ場、良い状態を生み出すフアシリテーション技術を学ぶ場であればいいと思います。



※中央はJRC研究員・三田愛

\*ブロックチェーン・テクノロジー：分散型のコンピューターネットワークで、中央集権を置かず信憑性ある合意に到達できる技術。皆でシステムを監視しあっているため、ハッキングを防止することができる。

この対談は「ココリ!プロジェクトサイト (15ページ参照)」でもご覧いただけます。

## コクリ! ニュース

これからのコクリ!プロジェクトについて、  
いくつかお伝えする

### News 1 地域コ・クリエーション 手法のメソッド化と コクリエーター養成、進行中

現在、「コクリ!プロジェクト」では地域  
コ・クリエーション手法の「メソッド化」  
を急ピッチで進めている。また、このメソ  
ッドを使って、各地域にコ・クリエーシ  
ョン文化を伝えていく「コクリエーター」の  
育成をスタートしており、P11で紹介したま  
あちゃん/長友まさ美さんなど、数名のコ  
クリエーターがすでに誕生しつつある。  
2016年度は、いくつかの地域にコクリエ  
ーターが入り、地域コ・クリエーションの  
メソッドを伝えていくことで、地域づくりを  
進めるとともにメソッドを検証し、磨きを  
かけていく。メソッドが完成したら、改めて  
「とーりまかし」で報告したい。また、  
コクリエーターとメソッド化に興味がある  
地域の方はぜひご連絡を。

### News 2 2016年夏、 「リアル!キャンプ」を 実施予定

2016年夏には、数十人がキャンプ場な  
どでテントを張って2~3日過ごす「リアル!  
キャンプ」を実施予定だ。自然のなかでコ  
クリ!キャンプ以上に深く対話し、大きな  
一歩を踏み出せる場にしたいと考えてい  
る。どのような変化が出るか、興味深い。

### News 3 「コクリ!プロジェクト」の Webサイトが 充実してきた

2015年3月、コクリ!プロジェクトの動  
きを伝える「コクリ!プロジェクトWebサイ  
ト」が始まり、Facebookページも立ち上  
がっている。すでに1年以上経っており、  
コンテンツも充実してきた。こちらでは、  
今後も随時「コクリ!プロジェクト」の動  
きや情報を伝えていく。興味のある方は  
ぜひ覗いていただきたい。



コクリ!プロジェクトWebサイト (<http://jrc.jalan.net/cocre/>)

## 3rd step!

### 北極星(ありがたい未来)を 決めて、一歩を踏み出す

ヘアインタビュー、トリオインタビューを行うと、  
普段の立場や環境の違いを横に置き、境界を超えて  
「このまちが好き」といった「共感」でつながることができるはず。  
次にコアチームの「北極星(ありがたい未来)」を決めて、  
テーマを決め、アイデアを出し、一歩を踏み出してみよう!

- ここでいう北極星(ありがたい未来)とは、「どのようなまち・地域にしたいか」ということ。2nd stepで、全員が共感できたことがあったはず。それが北極星につながっていきます。なお、北極星はまず「長期(20年後など)」を考えたうえで、「短期(1年後など)」を具体的に設定していくと考えやすいと思います。
- 次に、「北極星を実現する上で、コアチームとしてやりたいことは何か」を考えてみてください。いったんは広く考えたほうがよいですが、具体的に進める際にはテーマを具体的に絞ったほうがやりやすいです。ちなみに、このとき「やらねば」サイクル(「とーりまかし」38号)に入らないように、心からワクワクする「やりたい」を重視するのがポイント。予算や人など、現実の制約もとばらって、最高にワクワクする未来を考えてみましょう。「やりたい」サイクル(「とーりまかし」38号)に入れば、好循環が続いていきます。
- やりたいことが決まったら、アイデアを出し、企画を立て、一歩を踏み出しましょう。小さな規模でまったくかまいませんから、実際に取り組んでみるのです。このようにして、相手と深くつながってから一緒にチャレンジしていくのが、「コ・クリエーション」です。既存の能力・スキルを組み合わせる取り組みの「コラボレーション」とは、この点が大きく違います。

## NEXT step!

### 次のサイクルに入る

「3+1」のコ・クリエーション原則は、常に回り続けるサイクルです。  
3rd stepが終わったら、また1st stepに戻ります。  
行動してみたことで、改めて自身の想いが深まったはず。  
次は、根っこの想いを徐々に大きな「うず」へと広げていきましょう。  
たとえば、コアチームを中心に30人程度を集め、  
まちの未来を対話する場を開いてもよいですし、  
地域外の気になる人たちと新たなつながりをつくるのもよいでしょう。  
どちらにしても、2nd stepと同じように、  
根っこの想いをインタビューし合うところから始めることが大切です。  
すべては、一人の想いから始まります。  
そのエネルギーを継続させ、想いを伝播させていくのが  
コ・クリエーションの大きな特徴です。

## 1st step!

### 一人で内省して、根っこの想いを自覚する

最初に、自分自身と心のなかで対話して、自分の「根っこの想い」に気づく  
「内省」の時間が大切です。以下のことについて、5~30分ほど想いを巡らせてみよう。  
ノートなどに書いてみるのもオススメです。

- すべての人には「ギフト(生まれながらの力)」があります。その力を本領発揮するようにしていくのが、コ・クリエーションで最も大切なこと。誰もが自分の「存在意義」につながり、自分の生きる意味を実感したとき、内から大きなエネルギーが湧き出てきます。自分の中にある、この力につながるために、まず以下の質問に答えてみてください。
- これまで、仕事やプライベートのなかで最も嬉しかったことや、自分が最高にワクワク本領発揮した時、「自分はこのために生まれてきたんじゃないか」と感じた時のことを思い出してみてください。どんな「シーン」だったかを思い浮かべて、できるだけ具体的に教えてください。
- あなたの人生のなかで、このまちを「好きだなぁ」「ここに生まれて、生活して、働いてよかったなぁ」と思ったのはどんな時ですか? エピソードで紹介してください。また、それを思い出すことで、ご自身が改めてまちに感じている愛や想いとどんなものでしょうか。
- 改めて、まちがどのようになれば、最高の状態になると思いますか。その未来のために、ご自身が取り組んでみたいこと、チャレンジしてみたいことはどんなことでしょうか。今の延長線上に捉われず、本当に創りたい未来を妄想してみてください。

## 2nd step!

### コアチームを創り、メンバー同士でつながる

一人で種火を継続するのは難しいもの。想いに共感する仲間を集め、コアチームを創ろう!  
そして、チームメンバー同士で対話し、共感でつながろう。

- コアチームには、種火を持っていそうな人(自分の根っこの想いに共感してくれそうな人、一緒に話していてワクワクする人、まちの未来に熱い想いを抱えている人など)を3~5名、見つけましょう。イノベーションは多様性からしか生まれません。ぜひ業種・職種・性別などの多様なメンバーを考えてみてください。肩書き・年齢などを気にする必要は一切ありません。その後、声をかけて呼びかけていきます。この時に大切なのは、ご自身の根っこの想いやチャレンジしたいことを伝え、一人ひとり口説いていくことです。
- コクリ!プロジェクトでは、仲間を「あだな」「ニックネーム」で呼び合っています。肩書きではなく、互いに「一人の人」としてつながっていることを全員に意識してもらうため。オススメです。
- コアチームを創ったら、根っこの想いを共有しましょう。2人1組の「ヘアインタビュー」か、3人1組の「トリオインタビュー」がお勧めです。1st stepの質問を、今度は自分ではなく、相手に対して行い、お互いの根っこの想いを引き出し合っていきます。その際は、評価や判断をせず、子ども心で興味津々、好奇心たっぷりにインタビューしてみましょう。誰かにインタビューしてもらうことで、1st stepの内省では出てこなかった想いが出てきます。そこに一人ひとりの素晴らしい「根っこの想い」が隠されています。
- このようにして、コアチームの場を「安心・安全」にして、「関係の質」(「とーりまかし」38号)を高めていくことが、すべてを良い方向に動かす、大切な土壌となります。



## コクリ!プロジェクト の

### 実践と未来

コ・クリエーションは、「3+1」のコ・クリエーション原則を踏まえれば、決して難しいものではない。ここでは、だれでも一歩を踏み出せる方法を、研究員の三田がお伝えする。

私がお伝えします!



じゃらん  
リサーチセンター  
研究員  
三田 愛

人材育成、地域力開発を専門とし、地域変革支援を研究。米国CTI認定プロフェッショナル・コーチ